

美瑛富士・携帯トイレシステム試行3年目の活動報告

美瑛富士トイレ管理連絡会
事務局 山のトイレを考える会

1. 3年目の取り組み

2017年も北海道の山岳団体等で構成する「美瑛富士トイレ管理連絡会」（以下 美瑛トイレ連絡会と略称）の協働により、6月26日～9月24日までの3ヵ月間、仮設携帯トイレブース（テント型）の点検パトロール・維持管理を実施することができました。点検パトロール予定日は荒天で中止の団体もありましたが、全部で8回実施できました。

昨年は強風で仮設携帯トイレブースが倒壊し復旧させたのですが、残念なことに今年も9月18日の台風によって倒壊しました。

昨年の点検パトロールと異なるところは、避難小屋に無料携帯トイレを配備し、携帯トイレを忘れた登山者に使ってもらおう試みを実施したことです。

点検パトロール・維持管理を協働して頂いた道内山岳団体等、イニシアチブをとって頂いた環境省東川自然保護官事務所、そして回収ボックスの維持管理、使用済み携帯トイレの処分を引き受けて頂いた美瑛町と上富良野町の関係者の皆さまに感謝申し上げます。

2. 2017年度取り組みの役割分担

役割分担は2015年、2016年とほぼ同様に実施しました。

仮設携帯トイレブース(テント型)の設置	環境省北海道地方環境事務所
携帯トイレ回収ボックスの設置	美瑛町、上富良野町
携帯トイレブース及び周辺の点検・清掃	美瑛富士トイレ管理連絡会(※1)
回収ボックスの維持管理	美瑛町・びえい白金温泉観光組合 上富良野町・上富良野振興公社
使用済み携帯トイレの回収・処分	美瑛町・上富良野町
取り組みの広報	関係機関(※2)・山のトイレを考える会

(※1)北海道内の山岳関係団体等：北海道山岳連盟、北海道勤労者山岳連盟、道央地区勤労者山岳連盟、道北地区勤労者山岳連盟、札幌山岳連盟、白老山岳会、日本山岳会北海道支部、北海道山岳ガイド協会、大雪山国立公園パークボランティア連絡会、山のトイレを考える会で構成

(※2)環境省北海道地方環境事務所、林野庁上川中部森林管理署、北海道上川総合振興局、美瑛町

3. 2017年点検パトロール等の実施日と担当団体

- ・6月25日（日）…仮設携帯トイレブースの設置日、豪雨のため登山口で中止：11名
（環境省・美瑛山岳会・山のトイレを考える会等）
- ・6月26日（月）…仮設携帯トイレブース設置：4名（環境省・美瑛山岳会）
- ・7月9日（日）…白老山岳会：7名
- ・7月23日（日）…大雪山国立公園パークボランティア連絡会：6名
- ・7月29日（土）…札幌山岳連盟：4名

- ・8月 6日（日）…北海道山岳連盟：6名
- ・8月 20日（日）…山のトイレを考える会：5名
- ・8月 27日（日）…道北地区勤労者山岳連盟：5名
- ・9月 3日（日）…道央地区勤労者山岳連盟：9名
- ・9月 13日（水）…北海道山岳ガイド協会：2名
- ・9月 17日（日）…台風のため中止・日本山岳会北海道支部
- ・9月 24日（日）…仮設携帯トイレブース撤収：8名
（環境省・美瑛山岳会・山のトイレを考える会等）

のべ67名



美瑛富士避難小屋の仮設携帯トイレブース



白金温泉公衆トイレ横の回収ボックス

4. 協定書の締結

上川中部森林管理署と北海道地方環境事務所、上川自然保護官事務所、美瑛トイレ連絡会とで「美瑛富士における携帯トイレブースの設置及び調査に関する協定書」を締結しました。

締結式は6月23日、上川中部森林管理署にて行いました。この取組に携わる3者が、携帯トイレブースの設置及び調査を相互に連携協力して一層円滑に進めるための協定書です。

美瑛トイレ連絡会事務局の岩村代表に代わり仲俣が出席しました。

当日は、NHKのほか北海道新聞、朝日新聞から取材を受け、NHKニュースや新聞で報道されました。



協定書の締結式（6月23日）

5. 避難小屋での無料携帯トイレの配備

日本山岳遺産基金（山と溪谷社）は2016年度の日本山岳遺産に美瑛富士を認定しました。その副賞である活動助成金を美瑛富士で有効活用するために、携帯トイレを150個購入し、避難小屋に配備しました。

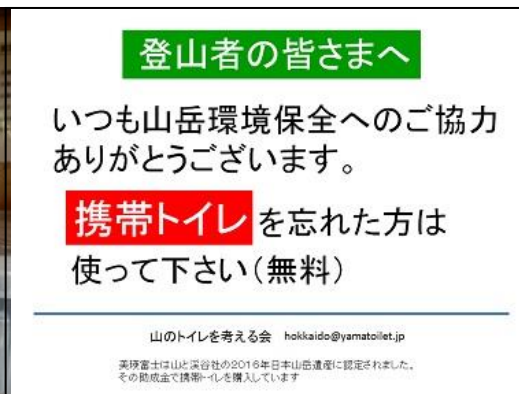
有料にしたかったのですが、お金の徴収管理が困難なため無料としました。ブース設置時に25個配備、その後は点検パトロール時に減少分を補充しました。最終的に持ち出されたのは

108個で、残りは各山岳団体で有効利用することにしました。

持ち出し記録簿には55個分しか記録されていませんでしたが、約9割は北海道の登山者でした。持ち出された携帯トイレは、実際に現地で使用されたか、家に持ち帰られたか分かりませんが、ティッシュや汚物の減少に寄与したと考えています。



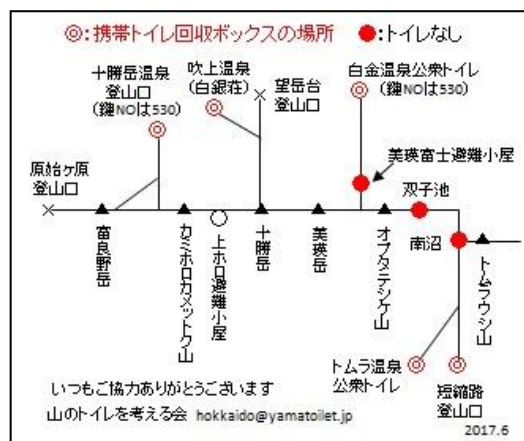
無料携帯トイレの小屋内配備



無料携帯トイレについての掲示



回収ボックスの場所を貼り付け



無料携帯トイレ・貼り付けシート

6. 強風によるテントブースの倒壊

9月18日、テントブースが倒壊しました。6日後の9月24日がブースの撤収日でしたので、再設置は行いませんでした。

昨年に続いての倒壊です。再設置するにしても登り約3時間40分、下り約3時間もかかり労力も大変です。

環境省には利尻山や羅臼岳のような頑丈な固定式携帯トイレブースの一日でも早い設置を要請したいと思います。



今年も強風によりブースが倒壊

7. 点検パトロール実施報告から

美瑛トイレ連絡会の参加団体等から次のような報告がありました

- (1) 昨年よりティッシュや汚物が少なくなった
- (2) 携帯トイレブース内で酷いアンモニア臭がした。ブースの中で直接排尿したと思われる（8月20日・考える会）。次の点検パトロール時には臭いはしなかった。
- (3) ブースの外に1個、小屋内に1個、使用済み携帯トイレが放置されていた（9月13日・ガイド協会）
- (4) 携帯トイレブースの固定方法が改良されたので、テント下部での破損がなかった
- (5) 携帯トイレブースと回収ボックスの利用数カウンターはどちらも誤動作（誤操作？）し、正確に計測できなかった。それでもブースの方は何とか推定できた（表を参照）
- (6) 携帯トイレブースの利用数は少なくとも180と推定できる（去年は179）
- (7) 期間中のティッシュの回収数は35個、汚物は18個だった
- (8) 小屋内は清掃がされていて綺麗だった。残置ゴミはその都度回収した。

(表) 携帯トイレブースと回収ボックスのカウンター値

月/日	7/9	7/23	7/29	8/6	8/20	8/27	9/3	9/13	9/24
ブース	17	*1157	—	29	3363	3373	3380	3397	3423
回収 BOX	13 (0)	170 (0)	— (—)	184 (0)	266 (8)	277 (4)	282 (3)	290 (2)	322 (14)

*: ゼロにリセット。()は回収ボックスに入っていた使用済み携帯トイレの数



便座・便器の清掃



ブースの張り綱の調整



ティッシュと汚物の回収



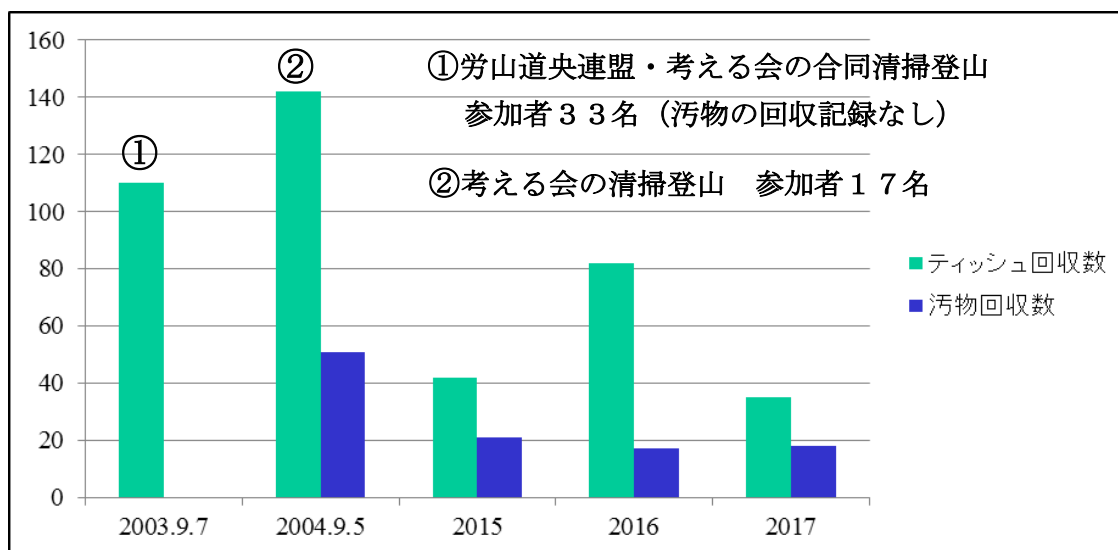
ブース撤収時は14個入っていた

8. ティッシュ、汚物は減ったか？

2015年から試行実施して3年目が終わりました。果たしてティッシュや汚物の散乱は以前と比較して減ったのでしょうか。下図グラフの①は2003年9月7日の清掃登山でティッシュ110個回収、②の2004年9月5日の清掃登山ではティッシュ142個、汚物51個の回収でした。

この3年間の回収数は①と②と比較するとかなり減りましたが、激減したとは言えません。来年はどうなるのか注視していかなければなりません。携帯トイレの所持率を上げ、自分のティッシュは持ち帰る！を広報する地道な啓発活動を続けなければならないと思います。

(図) 美瑛富士避難小屋のティッシュと汚物の回収数推移



9. 回収ボックスの場所と鍵番号の周知

回収ボックスは2015年、2016年は白金温泉公衆トイレの裏に設置したため、美瑛トイレ連絡会や登山者から「何処にあるのか分からない」との苦情がありました。2017年はトイレの横に設置、表から見えるようにしました。ここは観光客も多いことからゴミ投棄防止のためにダイヤル錠で施錠しています。この鍵番号「530」を登山者にいかに周知するかが課題です。回収ボックスにも白金観光センターで教えてくれることを掲示、避難小屋内や携帯トイレブース内でも案内しています。今年は下記写真のような対策も実施しました。



林道ゲート裏に掲示



入林届のドアに掲示

10. 次年度(2018年度)の取り組みについて

2017年も環境省、美瑛町、美瑛トイレ連絡会、美瑛山岳会などの多くの皆さまとの協働で美瑛富士における携帯トイレシステムの試行実施をすることができました。

2018年度も引き続き、登山者により使いやすい携帯トイレシステムを目指し、点検パトロールを実施していきたいと思っております。

【2018年の取り組み(案)】

- (1) 白金温泉街での携帯トイレ入手個所が分かる広報の実施。また販売数の把握。
- (2) 地元の理解を深めるため、凌雲閣、白銀荘、白金温泉観光センター等にポスター掲示、チラシ配布のお願いを兼ねて挨拶に行き協力をお願いする
- (3) 携帯トイレの回収数の把握方法を検討する
- (4) 美瑛町と上富良野町にも理解を深め協力をお願いする機会を持つ
- (5) 考える会で予算が確保できれば、携帯トイレの無料配備を実施する

11. 環境省へ望むこと

美瑛富士における携帯トイレシステムの試行実施の3年目が終わりました。北海道の山岳団体、地元自治体、環境省や北海道の行政が協働する形での試行実施は全国的にみても少なく先進的な取り組みだと思っております。これからが本気度を試されます。美瑛富士のこの協働方式が大雪山国立公園全体に広がり、全国にも波及することを期待します。各種メディアでも報道されると、登山者も自ら山のトイレマナーを守る流れが起きてきます。

そのためにはまず、美瑛富士避難小屋に固定式の携帯トイレブースを設置して頂きたいと切望しています。維持管理する山岳団体等のモチベーションも上がりますし、登山者の携帯トイレの所持率も上がると思っております。また維持管理を登山者が実施する風土も生まれていくでしょう。

行政と登山者、山岳団体が協働して山岳環境を守り、次世代に繋ぐムーブメントを起こそうではありませんか。

以 上

(文責：仲俣善雄)